

下水道政策研究委員会

流域管理小委員会

趣 旨

(第1回委員会での指摘を踏まえ修正)

1. 背景・目的

これまでの流域管理小委員会では、流域管理の視点から下水道の高度処理の推進や都市の水循環系再生のための施策等について検討を進め、提言を行ってきた。これを受けて、下水道法改正による高度処理共同負担制度、雨水流域下水道制度の創設や、特定都市河川浸水被害対策法の制定による総合的な流域浸水対策の制度化などの具体化を図ってきたところである。

しかしながら、平時における河川水の減少や水辺空間の喪失、浸水被害の深刻化等、健全な水循環系の再構築、良好な水環境の創出へ向けては、依然としてなお多くの課題を残している。

一方、平成17年9月に下水道ビジョン2100を策定し、普及拡大中心の20世紀型下水道から水循環・資源循環を創出する21世紀型下水道へ転換し、水循環に関しては、雨水・再生水の活用による水利用・再生ネットワークを図る「水のみち」を目指すこととした。

これらを踏まえ、「水のみち」の実現に向けて、流域管理小委員会においてこれまでの施策についてフォローアップを行うとともに、今後20～30年間の施策展開に向けて事業制度、予算制度、法制度等についての検討を進めることとする。

2. 検討事項

- (1) 流域が一体となって公共用水域の水質改善を図るための方策はいかにあるべきか
- (2) 都市内の水辺の再生、水路等の水量確保を図るための方策はいかにあるべきか
- (3) 近年の豪雨被害の深刻化に鑑み、施設による「雨水の排除」の考え方から、貯留・浸透も含めた「雨水の管理」への転換をいかに進めるべきか
- (4) 地域住民、NPO 等との目標の共有、協働に向けた仕組み及び地域の熱意を活かすための方策はいかにあるべきか

3 . 具体的な検討内容・スケジュール

第1回（1月18日）

- ・ 検討の視点について
- ・ 閉鎖性水域の水質改善に関する施策のあり方
- ・ 都市内の水辺再生、水路等の水量確保のための施策のあり方
- ・ 雨水貯留浸透の推進のための施策のあり方

第2回（2月21日）

- ・ モデル流域における検討（ケーススタディ）
- ・ 取組事例紹介
- ・ 施策課題の検討
 - 地域との目標の共有、協働に向けた仕組みづくり
 - 地域の熱意を活かす支援のあり方
 - 広域的視点からの国の関与のあり方
 - 雨水貯留浸透における他部局との連携及び下水道の転換のあり方
- ・ 中間とりまとめに向けた論点整理

第3回（3月28日）

- ・ 中間とりまとめ
- ・ モデル流域における検討（ケーススタディ）

第4回（5～6月）

- ・ 中間とりまとめ及びケーススタディを踏まえた施策の具体化に向けた検討
- ・ ノンポイント対策、水系リスク対策の検討
- ・ 最終とりまとめ案

第5回（8月）

- ・ 最終とりまとめ